

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間（1年生は揖斐Basic）の内容は自分にとって有意義であると答えた生徒が昨年より大幅に上がった（65%→81%）実施内容・方法ともに本校の生徒に合っていると思われる。</li> <li>・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多いという項目では、肯定的な評価が昨年度より大幅に上がった（68%→83%）が、学力が向上するように指導しているという項目では69%であった。保護者はより学校に期待していると思われる。</li> <li>・授業や家庭学習への指導・支援等をとおして一人ひとりの能力に応じた指導を行っているという項目では、生徒は80%だが、保護者は64%と満足度がやや低い結果となった。家庭学習の時間が増えるように課題等を研究する必要があると思われる。</li> </ul>
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 教科指導 (1) 生徒の実態に応じた指導計画の作成 (2) 基礎基本内容の習得と主体的な学習態度の育成 (3) 創意工夫のある授業の実践 2 今後も継続発展させる職員の体制 (1) 授業規律確立に十分配慮しかつ家庭学習に支えられた授業展開 (2) 諸活動に対する教職員の協力体制の充実 (3) 学力の向上に向けた教職員の組織的対応の推進 (4) 学習習慣の確立への支援 (5) 「総合的な探究の時間」実施に関する企画・調整 3 コンピュータを活用した校務処理の体系化 (1) 校内ネットワークに関するセキュリティの向上 4 情報発信 (1) 電子メディアによる情報発信(HP、メール配信システム)

	(2) 活字メディアによる情報発信 (学校案内等の編集) (3) 本校に関する報道記事の収集と保存 5 連携型中高一貫教育の充実 (1) 西濃地区連携型中高一貫教育事業の推進	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会 ・教科書選定委員会 ・補助教材等選定審査会 ・総合的な探究の時間推進委員会 ・学習成果発表会実行委員会	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 評価と指導の年間計画・シラバスの配付の作成依頼、集約 (2) 授業アンケートの実施と集約 (3) 連休課題等の早めに配布。 (4) 「授業改善研修会」の実施授業改善への取組とその検証及び反省記録の依頼集約 (5) メール配信システムへの登録状況向上 (6) HP更新(揖斐高Topics、各種通信など)新聞記事の許諾申請・掲示 (7) 町教委、連携中学校、本校と連携行事(中高一貫教育事業)の調整 (8) ICTを活用した授業への取組 (9) オンライン授業の実施	(1) 評価と指導の年間指導計画・シラバスの作成に関して各教科への確に依頼できたか。 (2) 年2回実施し、授業改善に役立てたか。 (3) 適切な配布時期で実施することができたか。 (4) 授業改善にむけて、テーマに合わせた研修が実施できたか。 (5) 登録が適切に行われ、登録者の増加に繋がったか (6) 情報発信が滞りなくできているか。 (7) 連携についての課題を解決しながら、行事を進めることができたか。 (8) ICTを活用して授業の改善ができたか。 (9) 必要時にオンライン授業が実施できたか。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
①評価と指導の年間指導計画・シラバスの作成依頼・集約と年度末授業改善のための反省記録の依頼集約が計画的に実施できた。 ②全職員が「授業アンケート」の実施による生徒の状況把握、改善実践状況の交流ができた。 ③学習習慣の支援を行うために連休課題を早めに集約し、配布できた ⑤配信メールの登録と帰宅確認訓練の実施ができた。 ⑥HPの更新、記事の掲載及び許諾申請の提出がこまめに実施できた。 ⑦全職員の協力のもと、連携行事のスムーズな運営ができた。 ⑧他分掌との連携と学校行事の遂行ができたが教務部の負担は大きかった。 ⑨ICTを活用した授業の改善ができた。	①各教科に的確に依頼できたか ②授業改善に活かせることができたか ③適切な配布時期に実施できたか ⑤登録者数と回答率が向上したか。 ⑥更新頻度。すみかやな記事の掲示ができたか。 ⑦課題を解決しながら運営できたか。 ⑧学習支援、教科・分掌との連携ができたか。 ⑨ICTを効果的に取り入れるとともに、授業の改善ができたか。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D A B Ⓒ D Ⓐ B C D
12 成果・課題	①○今年度から、毎学期ごとの集約をやめ、年度末1回のみとした。授業時間数は、e教務で把握できる。来年度は、1、2年生が新教育課程となる。早めに職員に周知し、準備をすることができた。 ②○生徒が普段思っていることを聞く良い機会であり、授業改善の足がかりになった。MicrosoftFormsを利用することで、効率よく集計することができた。教科主任が取りまとめ、職員会議で周知させることができた。 ③○長期休業課題を保護者懇談時に配布し、早期に知らせることができた。MicrosoftTeamsを活用して、依頼、集約ができた。 ④○今年度もすぐメールを多く活用した。ほぼすべての生徒の登録ができ、慣れてきた。 ○1年生の保護者には、合格者説明会で説明を行い順調に登録できた。 ⑤▲帰宅確認を保健安全部と連携して、今年は1回しかできなかった。 ⑥○HPや新聞記事を更新し、取材依頼及び許諾もスムーズに実施できた。学校紹介の動画も掲載することができ、本校のよいアピールとなった。 ▲カレンダーを1カ月早く掲載すると予定がわかりやすい。 ▲更新や、新しいレイアウトやページを作ることについて研究が必要である。 ⑦○今年度より坂内中学校が閉校となり、3校との中高連携となった。中高連	総合評価 Ⓐ B C D

<p>携行事は、コロナ前の状況に戻りつつある。連携中学生のキャリア教育の一端となったと思う。</p> <p>▲谷汲中学校との授業交流の研究が必要である。</p> <p>⑧▲高校1日入学が3年ぶりに復活した。半日の日程に短縮したが、学習面談指導もスムーズに実施できた。やはり教務部や担当者の負担が大きかった。</p> <p>⑨○今年度は、臨時休校によるオンライン授業は、1日だけであった。しかし、オンライン時間割は年度当初に作成し、生徒にも周知できた。新型コロナ感染症予防で出席停止の生徒には、授業をそのまま生配信し、学習の機会を確保することができた。県から割り当てられた回線数は、5回線と少なくなったが、ブレイクアウトセッション機能を活用し、全クラス、全コース、全選択授業別の授業を配信出来た。</p> <p>○ICT機器を活用し、オンライン授業を積極的に行った。全職員でICT研修会を実施できた。</p> <p>▲ICTの活用が一部の先生に偏っている。</p> <p>▲頻りに利用しているためか、タブレットの破損が多くなってしまった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の実施、3観点の評価や、新科目について昨年に引き続き、研究していく。</li> <li>・評価と指導の年間指導計画、シラバス作成について記入の方法等について徹底する。</li> <li>・連休課題の回数を増やすなど、課題を出す時期やボリュームについて、検討する。</li> <li>・授業アンケートの取組み方は、定着してきたので、活用方法について検討が必要。</li> <li>・メールの登録をPTA総会や保護者懇談会など定期的に促し、帰宅確認に対する指導を徹底する。</li> <li>・HPの効果的な活用について検討する。</li> <li>・中高一貫教育について、年度初めに共通理解を図るとともに、授業交流について詳細を計画する。</li> <li>・連携中学校との課題について解決方法を見つけるとともに、行事への継続的な参加を依頼する。</li> <li>・行事の際の教務内の役割分担などを再考し、他の分掌や学年と連携のあり方を検討する。</li> <li>・校内研修を実施し、ICTの活用拡大に努めて授業改善につなげる。</li> <li>・生徒一人1台タブレットの運用、授業や家庭での活用方法の研究していく。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多いという項目で大幅に数値があがった理由は何か？        教え方が上手い先生が、多いのか、授業の仕方が上手くなったのか？        →詳細な分析は出来ていないが、揖斐高の生徒一人一人に寄り添って、教員が丁寧に授業を行っている成果だと思う。タブレットを活用して、授業改善を継続している。</li> <li>・帰宅確認はどのように実施しているか？        →いのちを守る訓練と一緒にタイミングで、一斉メールを配信し、生徒は、自分の今の状態を選んで返信するという方法で実施している。</li> <li>・谷汲中学校との授業交流はどうなっているか？        →揖斐川中学校、北和中学校には、揖斐高校の教員が、揖斐高校には、揖斐川中学校と北和中学校の教員が毎週授業に入っている。谷汲中学校とは授業交流がない。</li> <li>・授業交流のメリットは？        →生徒の学習のつまづき等が分かる。中学校の先生と意見交流もできる。等々</li> <li>・研究という言葉が、多く使われているが、研究は、課題を分析して、計画をたて、実施し、反省することだと思う。</li> <li>・働き方改革も言われているので、業務の分担を進めてほしい。</li> </ul>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号	19
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する	
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒</li> <li>・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒</li> <li>・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒</li> </ul>	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成</li> <li>・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施</li> <li>・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養</li> </ul>
3 評価する領域・分野	◇生徒指導部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別など、校内で実施された研修内容が保護者に伝わっていない。</li> <li>・校内での「授業姿勢」「身だしなみ」「スマホ使用」「あいさつ」では生徒自らマナーや社会規範を身に付けようとする姿が見られる。</li> </ul>	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 基本的な生活習慣確立の徹底 (1) 欠席・遅刻の防止対策 2 生命尊重の態度と人権意識の伸長の徹底 (1) 交通安全指導 (2) 生命や自他の生活を大切にできる生徒の育成 3 規範意識の醸成 (1) ルールの遵守とマナーの向上にむけた指導 (2) 問題行動の未然防止に努める (3) SNSの活用改善に向けての指導	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導委員会</li> <li>・いじめ防止対策委員会</li> <li>・人権教育委員会</li> </ul>	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒指導部、学年団による遅刻指導 (2) 地域巡回指導、交通安全教室 (3) 情報モラル教室、全校集会での啓発	(1) 遅刻者数の前年度比 (2) 交通事故発生件数の前年度比 (3) 問題行動発生件数の前年度比	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻が常習化している生徒へは、検温時や校内でコミュニケーションを取りながら指導した。</li> </ul>	①遅刻者増加 (503→1078) 欠席者数増加 (1624→2279) 早退者数増加 (347→423)	A B <b>C</b> D

<ul style="list-style-type: none"> <li>MSリーダーズによる交通啓発活動は、地域と協力して実施した。</li> <li>交通講話、情報モラル講話、人権講話などの啓発活動も、オンラインで全校生徒対象に実施している。</li> </ul>	<p>②交通事故増加（6→11）</p> <p>③問題行動件数増加（学校反省）8→12</p> <p>1月27日現在</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果</p> <p>課題</p>	<p>○心に不安を抱えている生徒が多くおり、不登校傾向の生徒が欠席を繰り返している。しかし、中には遅刻してでも登校しようとする生徒や、自分の進路のために努力している生徒もみられた。また、遅刻が常習化している生徒が多く、今後も遅刻の減少を目指して、意識面での改革につなげていきたい。</p> <p>○交通事故では、事故の際「大丈夫」と伝えその場を離れ、後から警察へ連絡することが多くあった。被害者でも加害者でも必ずその場で警察へ連絡することを徹底させたい。</p> <p>▲欠席者が増加している背景には、コロナ禍で家にいる時間が長くなり、体調不良による欠席・遅刻など基本的な生活習慣の乱れが考えられる。また、コロナ対応を含めた社会の変化にともなって生徒を取り巻く環境も大きく変化しており、今までなかったような指導内容も増えてきた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新入生に対する適応指導を充実させる。</li> <li>3学年共通した指導を徹底する。</li> <li>いじめの未然防止や、情報モラルに関する問題点を丁寧に説明する機会を多く設ける。</li> <li>生徒の自己理解力や自己効力感、コミュニケーション力などの育成を目指し、学校・家庭・地域の関係機関等の強化を図り、生徒を指導・支援していく。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席について、総数ではなく、実人数がわかるとよい。 →次年度から実人数を記載するようにする。</li> <li>心に不安を抱えている生徒に対して学校の対応はどうなっているか。 →スクールカウンセラーや週3日のスクール相談員が配置され、生徒の心に寄り添った支援ができる体制が整っている。</li> <li>身だしなみについて、進路などで必要となってから指導するのではなく1年生のうちから指導するよとよいとの意見。 →入学時のオリエンテーションで着こなしセミナーを行い制服の意味、意義等を伝えている。日々の生活でも指導している。今後も継続していきたい。</li> <li>問題行動や欠席を繰り返す生徒にはどのような要因があるのか。 →生活習慣の乱れや家庭環境の複雑化、家庭で欠席や行動が把握されていないなどの事案が多数あると感じている。 ライフスキルアップを向上させる教育をしてほしいとの要望あり。</li> <li>座位での姿勢（胡坐）や情報モラルなど、他者から見られている意識や善悪の判断をつける指導をしなければいけない。 →今後も情報モラル講話や普段からのスマホ利用について指導を継続していきたい。</li> <li>いじめに対しての予防策や対応はどうなっているのか。 →いじめ防止対策委員会の実施や、生徒同士でのコミュニケーションがうまく取れず誤解が生じている事案もあり、教員は話し合いが持てる場を設けるなど誤解を解くサポートを行っている。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号	19
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導部		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒、保護者から8割以上の「肯定的」な評価を得ている。理由として今年度はオンラインではなく学校にて学年別進路説明会を実施し予想以上に多くの保護者が出席されたからだと思われる。(出席率22%) ・18歳人口の減少という現象もあり、多くの生徒が第一志望の進路選択を達成できたことも満足度の高さに繋がったと思われる。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基礎学力の定着 (2) 生徒の進路希望・適性を踏まえた進路実現 (3) コミュニケーション能力の育成		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年会      ・総合的な探究の時間推進委員会 ・企画委員会    ・職員会議      ・進路指導委員会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 「揖斐Basic」(1年) (2) 「デュアル実習」(3生) (3) 「進路適性検査」(2・3年生) (4) 「企業&進学ガイダンス」(全学年) (5) 「先輩と語る会」(3年生) (6) 「進路希望調査」(全学年) (7) 「1分間スピーチ」(2年生) (8) 「キャリアプランナー」との面談 (9) 「企業訪問」実施	(1) 基礎学力診断、認定テストによる評価 (2) 取組状況、参加者の意識変化や感想 (3) 保護者懇談等で活用できたか (4) 視野を拡げ進路決定につながられたか (5) 一年後、二年後の自分を想像できたか (6) 生徒の実態調査、悩みの把握 (7) 原稿作成時の取組状況、発表会における評価 (8) 保護者懇談会等で役立てることができたか (9) 有益な情報を生徒に還元できたか		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
(1) 基礎学力診断、認定テストによる把握。	(1) 取組状況及び確認テスト	(A) B C D	
(2) 週1回年間20回継続、学習成果発表会で成果を披露	(2) 本校職員及び受入企業、参加生徒による評価	(A) B C D	
(3) 懇談時に進路について目標を明確にした	(3) 保護者懇談会で進路について相談できたか	(A) B C D	

<p>(4) 企業&amp;進学ガイダンスで視野拡大</p> <p>(5) 先輩と語る会を実施</p> <p>(6) 進路希望調査</p> <p>(7) 「1分間スピーチ」の原稿作成及び発表会を実施</p> <p>(8) 5月に3年生、10月に2年生全員と面談</p> <p>(9) 企業とのつながり</p>	<p>(4) アンケートの感想分析</p> <p>(5) 聞き手だけでなく、発表者の成長が見られ、今後につながる活動となった</p> <p>(6) 特に3年生では3回実施変化や悩みを把握し面談につながった</p> <p>(7) 原稿作成時及び作成した原稿の評価、発表会の評価</p> <p>(8) 生徒が自分を語る場を提供</p> <p>(9) 進路決定に役立ったか</p>	<p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
<p>12 成果・課題</p>	<p>○「デュアル実習」11名が履修を終え、学習成果発表会では企業の方々を招き、見事な発表を披露できた。そのまま内定につながった生徒が5名いた。</p> <p>○「進路希望調査」4月～7月にFormsを活用して実施。揺れ動く進路希望先や悩みを適宜把握し担任に還元することができた。生徒の状況把握度が格段に増し進路への不安解消に結びついた。</p> <p>○「企業訪問」生徒の第一希望を尊重し、企業側と交渉することで採用枠増につなげ内定に結び付いた。</p> <p>○「企業&amp;進学ガイダンス」2年生で2回、3年生で2回実施した。各生徒は8ブース×20分、担当者から話を聞き視野を広げた。進路選択に大きな影響力があった。</p> <p>○「先輩と語る会」3年生は自分の進路実現に対する成功体験を堂々と発表できたと同時に自己肯定感も高まったように見られた。聞き手側の後輩も1年後、2年後の自分の姿と重ね、真剣に耳を傾ける姿が印象的だった。</p> <p>▲今年度から応募前見学を2か所は回り、比較した上で企業選択ができるようの方針を転換した。中には2か所では決まらず3か所回った生徒もいた。十分比較し納得した上で応募できた点は生徒にとってメリットとなった。逆に、進路担当者の書類準備が煩雑になったり、応募時期がずれ個別対応となったりした案件が増えた。しかし、今後、生徒数が減少することを考えると、今年度以上に手厚い指導が可能である。継続したい。</p>	<p>総合評価</p> <p>(A) B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 今年度の成果を今後につながるようにマニュアル化したい。</p> <p>(2) 他校の先進的な取組を積極的に取り入れ、生徒に還元できるように努めたい。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デュアル実習」11名中5名が内定、残りの6名はどうなったか。 →実習先とは異なる企業に就職した。デュアル実習は内定をもらうことが目的ではない。職業観を養い視野を広げることがねらいである。求人票の条件を比較して、直前に他の企業に興味を持った生徒もいた。ミスマッチを減らすため、多くの企業を比較することを推奨している</li> <li>・学年別進路説明会の出席率22%は多いのか。 →PTA総会への出席が例年10名程度であることと比べると、22%（約70名）は多いと言える。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号	19
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒</li> <li>・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒</li> <li>・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒</li> </ul>	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成</li> <li>・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習</li> <li>・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施</li> <li>・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養</li> </ul>	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒</li> <li>・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒</li> <li>・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒</li> </ul>

3 評価する領域・分野	◇特別活動部		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルーム活動、部活動、生徒会活動に関する生徒の回答の高評価の割合が少しではあるが上昇している。コロナによる活動制限が緩和され、学校行事や部活動の大会等が日常に近づいたことも影響していると思われる。</li> <li>・部活動に関する保護者の回答の3分の1 (35.6%) が「わからない」と回答していることは、部活動加入率が約50%であることが要因であると考えられる。</li> </ul>		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒が自ら考え行動する力を育てる。 2 委員会活動の充実をはかる。 3 部活動への積極的な参加を促す。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の話し合いの場の設定と研修会の実施。</li> <li>・各委員会顧問との連携。</li> <li>・各部活顧問との連携と生徒へのはたらきかけ。</li> <li>・部活動運営委員会</li> </ul>		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 定例の執行部会の開催・リーダー研修会の実施 (2) 委員会活動の活性化と新しい企画・取り組みの検討 (3) 部活動参加の働きかけ。部の活動状況の広報	(1) 生徒の自主的な話し合い・活動がなされたか。 (2) 各委員が活動に積極的に参加するようになったか。 (3) 入部者が部活動を継続できているか。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週1回の生徒会執行部会、長期休業中のリーダー研修会の実施</li> </ul>	① 活発な意見交換、意欲的な活動状況がみられたか。	A B C D <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span>	



<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動への参加を促し、新しい取組の検討</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、HRTが活動状況を把握しやすくする。</li> </ul>	<p>② 生徒の委員会活動への参加状況。</p> <p>③ HRTと部顧問との連携がなされたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成 果 ・ 課 題</p>	<p>○文化祭は工事のため体育館が使用できなかったが通常規模に近いかたちで開催でき、生徒の満足度も過去2年の「プチ文化祭」以上であった。</p> <p>○過去2年中止した体育祭を開催できた。学年対抗という新しい形式で実施したが、改善を加えながらこの形式を継続していきたい。</p> <p>○いびがわマラソン、青少年育成町民大会が開催され、生徒会執行部員が大会運営にかかわるボランティアに参加できた。この経験を校内での活動につなげたい。</p> <p>▲昨年度は70%を超えた新入生の部活動加入率が今年度は50%弱であった。（ただし継続率は90%以上である）</p> <p>▲委員会活動への生徒の参加状況は概ね良好であるが、新しい取り組みは不十分であった。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) 計画に基づき来年度は部活動数が全部で13となる。新入生の体験入部をさらに推奨して加入率を高め、キャリアパスポートを活用して活動を継続していくことを働きかけていく。</p> <p>(2) 生徒数の減少を踏まえ、生徒会役員の定数、委員会数の見直しを継続して行う。</p> <p>(3) 文化祭・体育祭などの学校行事の運営に当たっては、生徒会執行部が情報発信を活発に行い、生徒の積極的参加を促し、自主的な活動を充実させる。</p>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭において、学年対抗に変更されたことは大きな決断であったと思う。「今後改善を図る」とはどういうことか。 →ルール等、細かい部分で大雑把なところがあるので、今後改善を図る。</li> <li>・部活動において実際に合同チームで大会に参加した例はあるのか。 →サッカー部が新人戦において不破高校と合同で参加した。</li> <li>・PTA役員として文化祭に参加し、とても楽しかった。3年生の保護者だけでも参加させてあげたかった。</li> <li>・(部活動に関連して) 生徒の体力はどうなのか。 →幼少期の運動が大事である。それができていない生徒が多く、体力は年々低下している。</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号

19

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇保健安全部		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・睡眠時間や食事などの基本的な生活習慣が確立されておらず、遅刻早退や欠席等、学校生活に影響している生徒が多くいると推測される。 ・命を守る訓練ではコロナで実施できなかった屋外避難などが実施できた。実際に生徒自身が動いて確認できたことでより防災を学ぶことができた。 ・感染症について知識と理解が身に付き、自分自身で考えて行動できる生徒が増えた。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 保健指導：心身の健康状態を知り、健康増進や体力向上を実践する能力を育てる。 ② 学校安全：安全に対する意識を高揚させ、留意する態度を育て自らの判断で避難する能力を身に付ける。 ③ 環境整備：環境美化に自主的に協力し、将来的に地球規模での環境保全活動に取り組む意識と態度を育てる。 ④ 危機管理：災害や非常事態に備え、行動マニュアルや用品備蓄の対応を行う。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	① 保健指導：健康管理に関する指導、学校保健安全委員会 ② 学校安全：安全点検、各種訓練・研修の実施、防災指導 ③ 環境整備：清掃活動の指導 ④ 危機管理：対応に必要な物品整備、安全確保の指導、危機管理委員会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 各種健康診断及び事後指導・保健指導 (2) 安全点検・命を守る訓練 (3) 美化委員会清掃活動 (4) 備蓄品の確認	(1) 医療機関受診率の向上、保健室来室者の変化 (2) 不具合の対応、訓練状況の向上 (3) 清掃取り組み状況の向上 (4) 備蓄内容の選定		

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
① 各種健康診断の実施及び事後指導、保健指導 ②命を守る訓練等による、非常変災時に備えた行動体験、実際の緊急地震速報音声を利用した避難を実施 ③美化委員が中心となり、各種作業を実施 ④備蓄品の確認、変更	①健康診断後の事後指導を積極的に行ったが、医療機関受診率結果が低い。 ②訓練や講習会に取り組み再確認することで、意識や行動が向上したと考える。 ③各クラス美化委員を中心に意識をもって美化活動が行われたと考える。 ④災害時を想定し、選定を行ったと考える。	① A B C D ② A B C D ③ A B C D ④ A B C D
12 成果・課題	<p>○予告なしの訓練や様々な場面を想定（授業中・緊急地震速報）した訓練を実施し、非常変災時の啓発を行った。（命を守る訓練 4月11月1月 計3回実施）</p> <p>▲治療受診率            視力：R2 35.2%→R3 50%→R4 37.7%            歯科：R2 12.8%→R3 5.1%→R4 25.6%（1年25% 2年35% 3年19%）</p> <p>昨年と比べ、治療受診率は視力が低下、歯科は向上したが低いままである。確実に受診してもらうため、今年度は受診書が直接保護者に渡るよう、保護者懇談での対面指導を実施したが、状況は改善されず受診率は低いままである。歯・口の状態は生活習慣の状況を反映し、むし歯を治療せずに放置すると口腔清掃が不十分になり、プラーク量が増え、誤嚥性肺炎、糖尿病、動脈硬化、心筋梗塞、早産、低体重児出産のような病気を引き起こす可能性が高くなる。将来的に考えて必ず治療してもらいたいと考えるが、なかなか受診率が向上しないのが現状である。            個々への積極的な呼びかけ、保護者への再度連絡も必要かと考える。</p>	総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力検査及び歯科検診実施、診断後の治療受診率50%以上を目標とする。対象生徒、保護者への通知を行い、三者懇談で直接受信のお願いをしたにもかかわらず、未受診の生徒がいまだに多いため、担任と連携し、未受診者に対して再度通知を出すなど受診率を向上させたい。</li> <li>・本校はBMIによる、やや肥満・肥満と判定された生徒が多く、体力の低さも気になる点である。部活動や体育などと連携し、体力向上を目指したい。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>○歯科、内科など受診率の低さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・虫歯は治療しない限り自然治癒はない、虫歯が与える将来への影響などを学ばせることが必要。</li> <li>・高校生自身で受診に行くよう促す。</li> <li>・他校の受診率はどれくらいの値か            →比較できる値を他校に聞き取り調査する。</li> </ul> <p>○生徒の体格（肥満判定多）及び体力（平均値と比較して大幅に低い）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活や運動習慣など日常を見直す必要あり。</li> <li>・部活動加入率が低く、積極的に運動する習慣がない。            →体育時にトレーニングやウォーミングアップを取り入れ、基礎体力の向上を図る。</li> </ul> <p>○基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起き、食事、歯磨き、スマホやゲーム時間など各家庭での約束や習慣の影響が大きい。            →生徒だけでなく保護者へのアプローチの仕方を工夫する必要がある</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号	19
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇図書渉外部		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・家庭との連携として、文書わかりやすく伝えている。67% 確実に届けられている。78% ・PTA等の徴収金について詳細に公表している。75% ・一斉メールは有効に活用されている。92.4% ・豊かな心も含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。75%		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇PTA活動の情報を分かりやすく的確に伝えるために『あかつき』の内容を改善する。 ◇保護者への迅速な情報提供として、ホームページやメール配信システムを、より一層、有効活用する。 ◇豊かな心を育むため、読書への親しみを維持できるよう朝読書や読書感想文など継続して実践を行う。 ◇生徒が興味のある図書を準備するなど図書館利用の活性化を図る。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA役員会 ・同窓会理事会、同窓会総会 ・図書館運営委員会		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) PTA活動の情報を的確に伝えるために、『あかつき』の内容等を十分に検討する。 (2) メール配信システムを適宜、活用する。 (3) 年間を通じた朝読書の実践 読書感想文コンクール応募	(1) 『あかつき』の内容を改訂できたか。PTA役員会で意見徴収。 (2) 行事ごとに配信できたか。 (3) どのような本を読んでいるのか担任が把握。 読書感想文コンクール応募作品数。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・PTA活動の情報を分かりやすく伝えるために『あかつき』の内容を検討した。 ・メール配信を適宜利用し、連絡に活用できた。	・PTフォーラム、全国大会、文化祭などの活動状況を『あかつき』で報告した。 ・各会議や行事のお知らせ、進捗状況等をメール配信で周知した。	(A) B C D (A) B C D	

<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて朝読書を行った。全生徒が読書感想文を提出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書感想文優秀作品は『あかつき』で紹介し、伝達表彰で栄誉を称えた。</li> </ul>	<input checked="" type="radio"/> A   B   C   D
12 成 果 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役員の協力を頂いて、全てのPTフォーラムに参加できた。</li> <li>○学校の会議等にも全て参加していただき、学校の活動に対して理解を得られている。</li> <li>○進路を主題とした4月の学年別進路説明会に多くの保護者が参加。(22%の保護者が出席)</li> <li>○年間を通して毎日の朝読書が生徒に定着している。すき間時間に読書をする生徒の姿が多く見られ、実践の成果を感じる。地域の方々からの声を含め生徒の言動から年々豊かな心が育まれている印象を持つ。</li> <li>▲同窓会関係はコロナ禍で3年間、書面開催で代替している。</li> </ul>	総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B   C   D
12 来年度に向けての改善方策案 ○効率的な活動ができるよう、PTA役員の組織を見直し協力体制の充実を図る。 ○一斉メールサービスを活用し、配布物等について確認の連絡を入れる。 ○ICT教育一色とならないよう、調べものを含め従来通りの読書教育活動の充実を図り、豊かな心を含めた人間を育成しようとする校風を大切にしたい。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揖斐高校のPTA役員の満足度が高い。小学校、中学校のPTAと何が違うのか  → (PTA会長) 名簿に○を付けて強制的に選出されるような方法に問題があるのではないか。子供や学校の様子が理解でき、PTAに5年間、関わる事ができたよかった。</li> <li>・今年の文化祭、PTA役員は校内を視察できて満足している。3年生の保護者にも案内してもよかったのではないか。  →新型コロナの感染状況を見ながら対応している。今年度は外部の方の来校は遠慮するという学校の方針であったが、パンの販売を手伝うPTA役員に限定して視察していただいた。来年度は文化祭バザーを実施できることを期待している。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立揖斐高等学校

学校番号 19

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 豊かでたくましい心と自ら学び、自ら考える力を育成する (2) 知・徳・体の調和のとれた人格を養う (3) 地域社会に貢献できる人間を育成する		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・基礎学力を高め、学校生活のあらゆる場面で自ら学び・考え・行動できる生徒 ・多様な価値観を尊重し、仲間に対して心配りをしながら協働できる生徒 ・目標を達成するために挑戦し続けるとともに、「ふるさと揖斐」に貢献できる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・学校設定科目「揖斐Basic」と、ICTの活用や対話的な学習による、社会人として必要な基礎学力の定着と主体性・コミュニケーション能力の育成 ・生徒が自信をもって進路実現ができるよう、専門分野を深く学ぶために外部教育力を活用した出前授業や、自ら地域に飛び出しておこなう体験学習 ・地域交流・「デュアル実習」など、社会に開かれた教育課程の実施 ・規律ある学校生活や様々な学校行事や課外活動による、自らを律して行動する力と他者を思いやり尊重する心の育成と、社会貢献の精神の涵養	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・将来の目標を実現するために専門性を高めようと努力する生徒 ・仲間を思いやり・気づかい、コミュニケーションを大切にする生徒 ・自然豊かな揖斐で学び、将来もふるさと揖斐に貢献したい生徒

3 評価する領域・分野	◇専門部 (生活環境科・生活デザイン科)		
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業アンケート (年2回) の結果分析 ・授業に興味をもてた生徒の割合 91% (R3) →97.7% (R4) ・授業後さらに学びたい生徒の割合83% (R3) →91.6% (R4) ・自主的に家庭学習をしている生徒86% (R3) →86.3% (R4) ICTを活用した授業や実習の授業を通して、学習内容が「わかる」「できるようになった」と実感できる生徒が多くみられた。		
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学習指導方法の改善に努め、わかる授業を展開し、学ぶ習慣を身に付けさせる。 ◇将来に向けて「生きる力」「考える力」の育成を図る。 ◇地域交流・連携を促進する。		
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	・日常的にコミュニケーションを密に取る。困りごとの早期解決。 ・家庭科会議、コース長会議の開催、各分掌・学年との連携。 ・地域の人材を積極的に活用した講習会を実施する。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 指導と評価の一体化を通じた「わかる」、「できるようになる」授業改善 (2) 各種検定・コンクールへの挑戦 (3) 学習成果発表会に向けて継続的な取組 (4) 地域連携や外部講師による講習会を積極的に実施 (5) 学校家庭クラブ活動の推進	(1) 目標達成についての生徒による自己評価、実習及び授業の様子、実技テスト等 (2) 家庭科技術検定1級、介護職員初任者研修修了、コンクールの入賞 (3) 学習成果発表会の中間評価、振り返り (4) 授業アンケート、地域からの意見により判断 (5) 学校家庭クラブ活動の振り返り		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・「わかる」「できるようになる」授業の工夫を各自研修した。	① 生徒の自己評価、感想、実技テストの結果、授業アンケートの結果	(A) B C D	

<ul style="list-style-type: none"> <li>各コースの専門性を生かした実習や外部講師による講習会に取り組んだ。保育コースの木育や福祉コースの陶芸講習会、被服コースの草木染、食物コースの地域食材を活用した商品開発等、多岐にわたる実践ができた。</li> <li>ボランティア活動はコロナのため中止した。</li> <li>各種検定やコンクールの指導を朝や放課後の時間を活用して行った。</li> </ul>	<p>② 実習後の感想、反省の内容、外部講師の意見、施設からの聞き取り結果</p> <p>③ 検定の合格率、コンクールの入賞者</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○実践的な知識や技術を身に付けるために、授業以外にも外部講師による様々な講習会を実施し、体験的な学びを深めることができた。</p> <p>○様々な世代との交流や地域資源から学ぶ実践的な学習を通して、コミュニケーション能力や感性を磨くことができた。</p> <p>○揖斐川町やJAいび川、弓削銘水堂、NPO法人山菜の里いびと連携した商品開発を通して、地域資源の魅力を発見するとともに、達成感と地域に貢献する心を育むことができた。</p> <p>○学習成果発表会では培った力を発揮することができ、来賓、保護者、在校生、中学生など多くの方に見ていただくことができた。</p> <p>○各種コンクールに6人が入賞した。</p> <p>○初任者や経験が浅い教員が約半数を占める中、教員間のコミュニケーションと協働を大切に、チームワークよく進めることができた。</p> <p>○3年生の進路において、就職希望者の63.1%、進学希望者の82.3%が福祉、保育、食物、ファッション等、生活産業に関わる進路に進む予定である。</p> <p>▲コロナ禍により、ボランティア活動が中止となった。</p> <p>▲家庭科技術検定の合格率について、基本技術である3、4級は100%を目指したい。</p> <p>被服製作…洋服1級75% (42%) 洋服2級86% (91%) 3級43% (78%) 4級95% (100%)</p> <p>食物調理…1級84% (94%) 2級93% (79%) 3級74% (78%) 4級95% (100%)</p> <p>保 育…1級希望者100% (71%) 2級61% (91%) 3級84% (91%) 4級100% (100%)</p> <p>( ) 内はR3年度</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
<p>13</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善に努め、基礎学力の定着を図りたい。また、主体的に学び考える姿勢を育て、知識・技術を活用する場を多く設定して、深い学びにつながる工夫をしていきたい。</li> <li>学校家庭クラブ活動を生徒が主体となって、活性化させていきたい。</li> <li>学習成果発表会の内容をさらに充実させていきたい。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月9日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「来年度、学習成果発表会の内容をさらに充実させていきたい」とはどのような意味か。 →今年度の成果に満足せず、さらに発表会の質を高めたいという意味である。例えば、各コースや系列の研究内容を深めたり、知識・技術のみならず人間的な成長も伝えられるよう発表方法を工夫していく。</li> <li>学習成果発表会のプレゼン力を高めてほしい。 →「見せる」場であることを意識して、生徒の表現力を磨いていく。</li> <li>学習成果発表会のパワーポイントの中に、生徒の名前があるコースとないコースがあった。できれば生徒の名前を出して生徒の励みにしてほしい。 →発表会の模様がDVDとして残っていくため、個人情報の観点も踏まえながら生徒と相談して進めていく。</li> <li>学習成果発表会での在校生の観覧態度（積極的に拍手をするなど）を指導できると会が盛り上がる。 →今後、職員間で共有しながら改善していく。</li> </ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------